3 大井実のBOOKな話

福岡市内で書店『ブックスキューブリック』をいとなむ大井実さんの、本のある日常をつれづれに。

撮影／川上信也

二人の偉大なるイノベーター（革新者）による、生活を豊かにしてくれる本と音楽を。

「暮しの手帖」といえば、家庭を持つ女性のバイブルとして1948年の創刊以来、いまだにその人気は衰え知らずです。シンプルで読みやすいレイアウトに、一貫したポリシーを持った高いメッセージ性。広告は一切掲載しない、一般雑誌としてはあり得ないスタイル。母が愛読していたため、私も子どものころからよくペラペラとページをめくっていたのを覚えています。

そんな「暮しの手帖」のもうひとつの特長が、花森安治（やすじ）さんが編集長として創刊から30年間、自ら手がけた本誌のデザイン。表紙から挿絵、手書き文字に至る一連の装丁の芸術性の高さには目を見張るものがあり、彼の鋭い感性とセンスのよさにはつくづく、脱帽です。今月おすすめする「花森安治のデザイン」は、そんな彼の手仕事のすべてが収められた作品集のようなもの。毎回の表紙を飾る美しい絵、シャープな中に温かみあふれる挿絵。一文字一文字、丁寧に描き上げたタイトル文字。そのすべてが今見ても全く斬新。作る側が楽しんで作るからこそ読者にもその楽しみが伝わるという、雑誌作りの原点を感じずにはいられません。彼の雑誌作りのスピリッツは、今の人気女性誌の多くに影響を与えていることは間違いありません。

編集者のイノベーター（革新者）・花森安治。やや強引ながら、そのつながりでジャズ界のイノベーターを選ぶなら、まず思い浮かぶのがジョン・コルトレーンです。今回ご紹介する「マイ・フェイバリット・シングス」は、ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」の中の一曲をアレンジしたもの。重厚なコルトレーンのイメージに反して、流れるようなサックスの音色が軽やかで、ボレロのように繰り返し演奏される主題がなんとも魅惑的な一曲。

いつも身近に置いておきたい一枚です。

『花森安治のデザイン』
暮しの手帖社／2,310円

『JOHN COLTRANE /MY FAVORITE THINGS』
ジョン・コルトレーン
※版権の都合により、アルバムジャケットの掲載は控えています。